

★ つぎの文しようを読んで、後のもんだいに答えましよう。

わたしたちは、毎日の生活の中で、たくさんのごみを出します。また、ごみにも、もやせるごみやもやせないごみ、かんやペットボトルなどのようにしげんとなるしげんごみなど、さまざまなしゆるいがあります。

今、わたしたちのまわりでは、ごみを少しでもへらそうと、さまざまにな取り組みが行われています。

たとえば、買い物ものをしたときにふくろをもらわなかったり、使えるものはすてずに何回も使ったり、ごみをきちんとしゆるいべつに分けたりすることです。これだけでも、ごみをへらすことができるのです。

大切なのは、わたしたちひとりひとりが、ごみのことをしんけんに考え、へらすためにできることから始めることなのです。

(中林英純「くらしとごみ」より)

1 線「さまざまにな取り組み」について、①、②のもんだいに答えましよう。

① 何のための取り組みですか。六字で書きましよう。


ための取り組み。

② 取り組みの内ようをつぎのようになまとめました。□に当てはまることばを、十字までで書きましよう。

・買い物をしたときふくろをもらわな  
い。  
・使えるものは□。  
・ごみをきちんとしゆるいべつに分ける。


2 線「ごみをきちんとしゆるいべつに分けたりする」とありますが、ごみのしゆるいを、文しよう中から三つ書きぬきましよう。


3 ごみをへらすために大切なこととして、当てはまらないものを、ア〜ウから一つえらんで、記号に○をつけましよう。

アごみのことをしんけんに考えること  
イいつもきれいで新しいものを使うこと  
ウますぐできることから始めること

# 文章題テスト・説明文(2)

日 月 名前

★ つぎの文しようを読んで、あとの問いに答えましよう。

テントウムシを見たことがありますか？

小さくてまるく、つやがあり、とてもきれいな色をしていますね。また、

テントウムシには、太陽にむかってとんでいくというとくちようがあります。

では、テントウムシの「テントウ」とは何のことか知っていますか？ テン

トウは、漢字では、「天道」と書き、太陽や太陽のかみさまのことを言います。

よく太陽のことを「おてんとさま」と言うでしょう？

このようなことからテントウムシという名前がついたのです。

(英田吉「いきもの名まえ」による)

1 線「テントウムシ」の見た目のとくちようについて、つぎのようにまとめました。

①、②に当てはまることばを、それぞれ三字までで書きましよう。

大きさ	①
色	②
つやのあるきれいな色	まるい

①

②

2 線「とんでいく」は、「とぶ」と「いく」をつなげたことばです。同じように、つぎのことばをつなげて、一つのことばを作りましよう。

①「歩く」と「いく」

②「帰る」と「くる」

3 「テントウムシ」という名前がついたわけを、つぎのようにまとめました。

に当てはまることばを、それぞれ文中から書きぬきましよう。

「テントウムシ」には、

とぶという

とくちようがあり、太陽のことを

とよぶことから、

この名前がつけられました。



# 文章題テスト・説明文(3)

月 日  
名 前

★ つぎの文しようを読んで、あとの問いに答えましよう。

ミミズは、おもに土を食べて生きています。一日に、自分の体重たいじゅうの半分くらゐの量りょうの土を食べるといふのですから、おどろきです。

食べた土は、ふんふんとなつて体のそとに出されます。ふんには、植物しょくぶつが育つそだためのえいようがたくさんふくまれています。また、ミミズが土の中をうごきまわること、すきまができ、空気や水の通りがよくなります。つまり、土をたがやすはたらきもしてくれているのです。

3 ミミズがげんきだと、土や植物もげんきになると言えるかもしれませぬ。

(段野だんの 松子まつこ「自然しぜんにムダなんてない!」による)

1 線1 「おどろき」とありますが、どのようなことにおどろいているのですか。つぎの [ ] に当てはまることばを、文中から書きぬきましよう。

ミミズが、一日に、ものすごい量の [ ] こと。

2 線2 「うごきまわる」は、「うごく」と「まわる」をつなげたことばです。同じように、つぎのことばをつなげて、一つのことばを作りましよう。

① 「なく」と「さげぶ」

② 「とぶ」と「はねる」

3 線3 「ミミズがげんきだと、土や植物もげんきになる」のは、なぜですか。つぎの [ ] に当てはまることばを、それぞれ文中から書きぬきましよう。

ミミズの [ ] には [ ] がたくさんふくまれており、

また、ミミズがうごきまわること、 [ ] ことに

なるから。



# 文章題テスト・説明文(4)

月 日  
名 前

★ つぎの文しようを読んで、あとの問いに答えましよう。

カワセミという鳥の名まえを、知っている人は多いでしょう。けれど、この鳥を見たことのある人は、このごろではすくなくなっていると思います。

カワセミはその名のように、川にすんでいる鳥で、小さな川魚や、流れにすんでいる虫を食べて生きています。

カワセミを「川の番人」と、よんでいる人がいますが、それは、この鳥がきれいな川にしかないからです。

ちかごろ都市のまわりの川は、ひどくよごれています。川がよごれたすと、そこにすむ魚も種類がへりはじめます。カワセミのこのんで食べるウグイやオイカワの幼魚は、きれいな流れやふちにしかすめないのので、川がよごれはじめると、カワセミはもつときれいな川にうつっていくのです。

(高橋健)「ふるさとの川の番人カワセミ」より  
(注)ウグイ・オイカワ…コイのなかまで、川にすむ魚。幼魚…まだ小さい魚。ふち…水のふかいところ。

1 線1「カワセミ」について、つぎのよう  
にまとめました。□に当てはまることば  
を、文中からそれぞれ書きぬきましよう。

・すんでいるところ…川

・食べもの…小さな□や、

流れにすむ□

2 線2「この鳥を見た…すくなくなつて  
いる」とありますが、それはなぜですか。  
つぎの文の□に当てはまることばを、  
文中からそれぞれ書きぬきましよう。

都市のまわりの川が

□、カワセミの

食べものが□、食べものを

もとめてほかの

川にうつっていったから。

3 線3「川の番人」とは、どういう意味  
ですか。もつともふさわしいものを、  
ア～エからえらんで、記号に○をつけま  
しよう。

ア 川をそうじする人

イ 川のよごれを見る人

ウ 川の生きものをまもる人

エ 川にすむえらい人

# 文章題テスト・説明文(5)

日 月 名前

★つぎの文しようを読んで、あとの問いに答えましよう。

わたしたちは、むかしから、植物のにおりを楽しんできました。たとえば、ネギやシソなどかおりの強い葉を、料理のやくみとして使います。おかしのかおりづけや、香水の原料としても、植物を使ってきました。

植物のかおりは、いくつかの「かおりの成分」が集まってできていますが、

これらの成分の中には、さまざまなたらきをもつものがあります。日本でよくみられるクスノキのかおりのおもな成分には、虫をよせつけないはたらきがあることから、この木はタンスなどの家具の材料として使われてきました。また、さしみにつけるワサビのツーンとしたかおりの成分には、カビやさいきんがふえるのをおさえるはたらきがあるのです。このように、わたしたちは、かおりの成分がもつさまざまなはたらきを、生活の中でたくみに利用してきました。

(若山 香菜子「かおりのふしぎなはたらき」より)

(注) 成分…あるものをつくるもととなるもの。

線「植物のにおりを楽しんできました」とありますが、その楽しみかたを、次のようにまとめました。□に当てはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきましよう。

・料理の □ として使う。

・おかしのかおりづけに使う。

・香水の □ にする。



2 線2「これらの成分の中には、さまざまなたらきをもつものがあります」とありますが、かおりの成分がもつはたらきは、このあとの文しようの中でいくつ書かれていますか。数字で書きましよう。

つ

3 線3「この木はタンスなどの家具の材料として使われてきました」とありますが、この木でタンスを作ると、どのようなよいことがありますか。  
 に当てはまることばを、考えて書きましよう。

タンスの中の服に

こと。

4 線4「たくみに」の意味としてもっともふさわしいものを、ア～エからえらんで、記号に○をつけなさい。

ア じょうずに

イ びんかんに

ウ べんりに

エ しらないうちに

